臼杵公園のひなん道をおにいさんおねえさんに教えてもらおう

～臼杵小学校との交流学習を通して～

カトリック臼杵幼稚園

１　取組事例

臼杵小学校の４年生は国語科の中で「７つのひなん道リーフレットをつくって地域の人に広めよう」～臼杵のみんなをまもり隊がゆく～を行った。学習のまとめとして、当園の園児達(年長児)に、学んだ避難場所を案内する活動の依頼があった。

活動当日は、４年生の代表が園児全員に避難するときに大切なことを伝えてくれた。身振り手振りを交えてわかりやすく伝えようとする４年生の姿に幼稚園児もしっかり聞いていた。

その後、７つのひなん道の危ない箇所を園児と手をつなぎ案内してくれた。ポイントとなる場所ごとに、「崖が崩れたら危ないからまん中を歩くんだよ。」などと丁寧に教えてくれた。園児も「帰って、お父さんお母さんとどこに逃げればいいか話し合う。」と嬉しそうに話していた。

２　連携の取り方

臼杵小学校区内に建つ当幼稚園から、毎年多くの園児が臼杵小学校に入学している。また、毎年実施している合同避難訓練を通して、児童・生徒・園児達・教職員間の“連携”“つながり”を深めている。今回４年生が国語科で、取り組んだ「７つのひなん道リーフレットをつくって地域の人に広めよう」～臼杵のみんなをまもり隊がゆく～の学習のまとめとして、当園の園児達(年長児)に、学んだ避難場所を案内する活動の依頼があった。

後日、担当教員が来園し、活動の計画書をもとに打ち合わせを行った。案内の際のグループ分け用に、園児の名前がわかる名簿を貸した。また、安全に活動するために、支援が必要な園児についてのお願いや幼稚園側の教職員の配置等を伝えた。

３　まとめ

幼稚園にとって、年長児と小学校４年生との交流は初めてだったが、園児達や教職員にとって、たくさんの学びや気づきがあった。小学生が園に迎えに来た時、お互い少し緊張していたが、活動のもうひとつの目的「親睦」のため、避難場所案内に出発する前に、園庭で自由に遊ぶ時間を設定した。遊びを通して距離が縮まり、安心して担当の小学生と手をつないで臼杵公園に出発した。今まで幼稚園の避難訓練では７つの避難道のひとつ「今橋」を使っていたので、他の６つの避難道を子ども達の目で実際に見て、大人からではなく身近な先輩からの説明を一生懸命聞いて、新しい発見をし理解していた。活動後、顔見知りのお兄さんお姉さんができて、子どもたちは小学校へ入学することを楽しみにしている。

毎年入学前に１年生との交流会を実施し入学の不安も軽減していたが、今回の交流は、年齢差も大きいため年長児にとって、より安心につながっているようである。同じ地区で生活を送る仲間同士として、これからも交流活動を通して“連携”“つながり”を深めていきたい。

７つのひなん道リーフレットをつくって、地域の人に広めよう

～臼杵のみんなをまもり隊がゆく～

臼杵市立臼杵小学校

１　取組事例

臼杵市には、市内のほぼ中央に市民の避難場所である臼杵城跡があり、そこに登るために７つの経路がある。

本校では、「７つのひなん道リーフレットをつくって、ひなん道のよさや問題点を地域の人に広めよう～臼杵のみんなをまもり隊がゆく～」という取組を行った。

（１）臼杵のみんなをまもり隊スタート

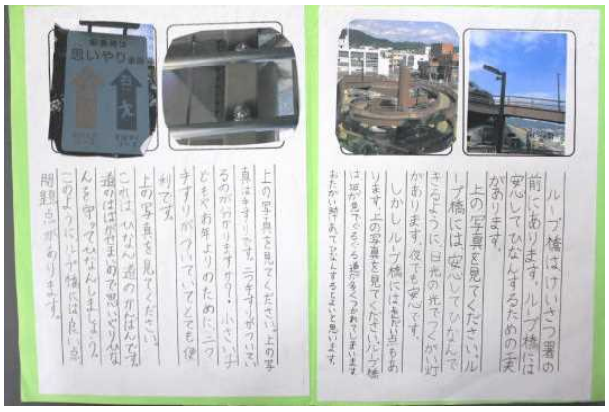
アップとルーズの写真に対応した文章を書き、リーフレットを作成する学習が４年生の国語科にある。この学習を通して、臼杵小学校が避難訓練をしている臼杵公園への７つの避難道のよさや問題点をリーフレットにして紹介し、地域の方々に知らせることにした。臼杵のみんなをまもり隊（守りたい）というめあてに向かって学習がスタートした。

（２）ひなん道を調査しよう

写真のアップとルーズの役割を学習したあとに、７つのチームに分かれて避難道のよさや問題点を探しに臼杵公園で調査活動をした。それぞれの避難道の特徴や，避難するときの危険箇所や工夫をタブレットで写真を撮ったり、メモしたりしながら２時間調査した。崖崩れの恐れがある場所・混雑時におされてがけに落ちそうな場所などの危険箇所を見つけたり、大人用と子ども用の手すりの違いや、車いすの方のためにあるループ橋の役割、夜間の避難時のための工夫などたくさん発見したりすることができていた。

（３）臼杵のみんなのためにリーフレットをつくろう

調査したことをもとに避難道ごとにリーフレットを作成した。まず、集めた多くのよさや問題点の中から、避難する時に重要なことを思考ツールを使って整理・選択していった。話し合いの中で、安全を優先するべきか文化財の保護も大切にするべきかといった意見の交流や、高齢者や体の不自由な人の立場になって考える姿があった。市の防災担当の方にも、話し合いの様子を見てもらいコメントをいただき、子どもたちの自信にもつながった。その後７つの避難道防災パンフレットが完成した。臼杵市中央公民館と観光プラザにリーフレットの掲示と、印刷して自由に持って帰ってもらい避難するときに役立ててもらうための冊子を作成し設置していただいた。



（４）幼稚園児に７つのひなん道を教えよう

学習のまとめとして、近くにあるカトリック臼杵幼稚園の園児に、学んだ７つの避難道の説明をすることにした。まず、４年生の代表が園児全員に避難するときに大切なことを伝えた。（下の表）身振り手振りをいれながらわかりやすく伝えようとする４年生の姿に幼稚園児もしっかり聞いてくれた。その後手をつないで、７つの避難道の危ない所を優しいお兄さん・お姉さんになって案内した。一つひとつの場所で、「ここは階段が急だから気をつけてね。」「崖が崩れたら危ないからまん中を歩くんだよ。」と丁寧に紹介していた。「幼稚園の子が安心して避難できるように、一生懸命頑張った。」とあとで話してくれた。幼稚園の子も「帰って、お父さんお母さんとどこににげればいいか話し合う。」と話してくれた。臼杵のみんなを守りたいという思いを伝えることができ、４年生の顔がまぶしく輝いていた。

（全体交流）
①ぼくたちは臼杵小学校の四年生です。
②ぼくたち四年生は、地震で津波が来た時にここ臼杵公園にひなんする勉強をたくさんしたよ。
③地震って、地面がぐらぐらゆれて、とってもこわいよね。
④地震がおこったら、まずみんなどうするかな。
⑤そうだね。つくえの下などにかくれて、ものが頭の上に落ちてこないようにしないといけないね。
⑥地震がおわったら、お父さんお母さん、先生のいうことをよく聞いて高い所に、にげないといけないね。
⑦どうして高い所にひなんしないと行けないの？
⑧地震の後に、海の波が大きくなってあぶなくなることがあるんだよ。その大きな波のことを津波っていうんだよ。
⑨そうなんだ。でもどこににげればいいの？
⑩幼稚園にいる時は、この臼杵公園ににげるんだよ。
⑪お家にいる時は、お父さん、お母さんとお話ししてどこににげるか決めておこうね。
⑫臼杵公園ににげるには、どこからにげればいいの？
⑬臼杵公園には７つのぼるところがあるんだよ。
⑭このあと、やさしいお兄さん・お姉さんがみんなに教えてくれるよ。
⑮にげる時は、友だちをおしたり、大きな声でお話をしたり、またもどったりしはいけないよ。わかったかな。
⑯来年はみんな１年生だね。ぼくたちは５年生になるよ。
⑰いっしょに勉強しようね。それでは７つのにげる道を案内するよ。

２　連携の取り方

カトリック臼杵幼稚園は、臼杵小学校のすぐそばにあり、卒園児も多く本校に入学してきている。３月には、臼杵保育園・カトリック臼杵幼稚園・臼杵小学校・臼杵東中学校の４校で合同避難訓練も行っている。「７つのひなん道リーフレットをつくって、地域の人に広めよう」の学習をするに当たって、同じ臼杵公園に避難する幼稚園児に学んだことを教えれば、お互いに防災意識を高めることができるのではないかと考えた。まず、カトリック臼杵幼稚園の先生に活動のねらいを伝え理解していただいた。後日、避難道案内の活動の計画書を作成して、幼稚園で打ち合わせ会を行った。期日・活動場所・参加者・日程等を話し合い、防災学習とともに親睦を図ることを確認した。案内する時のグループを決めるために園児の名簿を借り、雨天時の連絡などについて話し合った。安全に十分留意するよう参加する教職員の役割を決めておく必要がある。

３　まとめ

この活動を通して、校内だけで行っていた防災の取組を地域に広めていくことができたと思う。臼杵小学校は防災学習や避難訓練などに力を入れて子どもたちの命を守り、防災意識を高める活動を行っているが、地域の方はその取組をあまり知らない。子どもたちが防災について考えたことを地域に発信することにより、地域の大人たちも防災意識が高まっていくことと思われる。また、自分たちより小さい幼稚園児に避難道を教えることで、学んだことを伝える喜びや達成感を味わうと共に、伝えたことによって責任感をもち、避難訓練のときに考えて行動することができるようになった。課題としては、１年間の活動に終わらせてはいけない。毎年の活動としていくためにも、引き続き校内や幼稚園と連携を取り合っていかなければならない。来年は１年生５年生として臼杵小学校で共に学んでいく仲間である。命を大切にする学習を深めていきたい。

小学校と中学校が連携した防災教育の取組

佐伯市立東雲小学校・佐伯市立東雲中学校

佐伯市立東雲小学校、東雲中学校は、佐伯市上浦地域の大しめ縄で有名な豊後二見ヶ浦のすぐ側に立地し、佐伯湾に面している。想定される南海トラフ地震の佐伯市での最大震度は６強。上浦地域の最大津波高（満潮時）は、地震発生後４５分で５．２６ｍと想定されている。校区は、東西に広がる海岸沿いにあり、急傾斜地崩壊危険箇所も多いため、安全に避難することができる経路の確保が難しいなどの課題もある。また、事前の児童生徒アンケートでは、小学校では「南海トラフ地震について知らない児童」（４８％）、中学校では「家族で災害発生時に待ち合わせ場所を決めていない家庭」（６１％）という結果もあった。

そこで、平成２７年度佐伯市のモデル校として小中一貫教育に取り組んでいる利点を生かし、小中の連携を柱に、防災教育の視点を取り入れた授業づくり等に取り組んだ。その内容について紹介する。

１　取組事例

（１）小中合同研究主題及び仮説の設定

①　研究主題

「自他の命の大切さと向き合い、自ら行動できる児童生徒の育成をめざして」

主題設定に当たり、以下の取組が必要と考えた。

○　児童生徒に地震に伴って起こる津波について正しい知識を学び、自らの命を守るためにどのような行動をとるのかを考えること。

○　防災キャンプなどの体験活動を通して、避難生活をどう送っていくかなどを学んでいくこと。

○　災害時の家庭との連絡方法等、家庭や地域と連携した取組を行い、防災教育の充実を図っていくこと。

○　「被災地研修」を行い、被災地の現状と３・１１当時の様子を児童生徒が現地で生の声を聞き、肌で感じ、それを他の児童生徒に伝えることで防災についての関心が高まり、調べ学習などをすることによって、主体的に判断し、自他の命を守ろうとする行動力をつけること。

②　研究仮説

各教科や総合的な学習の時間において学んだ知識や技能を生かし、体験活動や調べ学習などを行うことによって、災害時に主体的に判断し自他の命を守ろうとする行動力がつくであろう。

（２）研究構想

①　研究主題に迫るための手立て

ア：小学校では全領域において防災教育の視点を入れて行い、中学校では総合的な学習の時間において防災・減災についての調べ学習を計画的に実施する。

イ：小中合同部会を利用して、小中の連携した取組を行い、児童生徒の発達段階を考慮した防災教育を行う。

ウ：ＰＴＡと連携して防災教育講演会を行い、家庭の中で防災教育を考える機会をつくる。
エ：防災キャンプや避難訓練を実施し、自らの命を守るためにどのように避難し、避難後どのような対応が必要なのか考える。

② 発達段階に応じた「付けたい力」

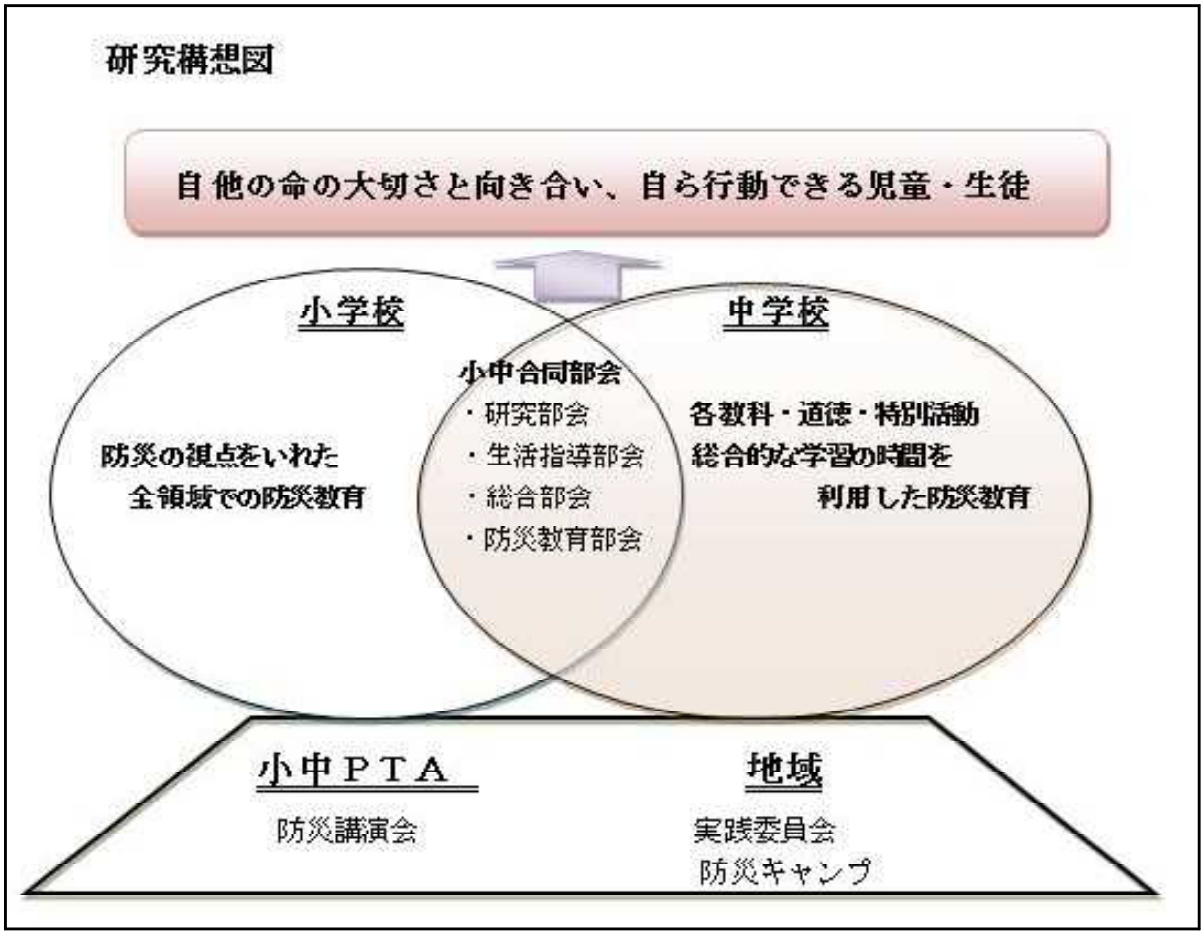
ア：小学校

○ 基礎的・基本的な知識及び技能
○ これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力
○ いろいろな情報を踏まえ、適切な判断ができる力
○ 思考、判断したことを行動で表現する力

イ：中学校

○ Ｓ：「課題設定能力」→ Ｇ：「情報収集能力」→ Ａ：「整理・分析力」→ Ｅ：「まとめ・表現力」のＳＧＡＥのサイクルをまわす。
※Ｓ：set（設定）、Ｇ：gather（収集）、Ａ：analyze（分析）、Ｅ：express（表現）
○ 自己有用感（自分を大切にする力）
○ 自己理解力（災害に対する知識を習得し、理解を深める力）
○ 将来設計力（予想される災害に対して解決する力）
○ 意志決定力（状況に応じた冷静な判断し行動する力）

ウ：研究構想図



（３）**幼小中合同避難訓練**（平成２７年５月２６日実施）

両校では、幼稚園も含めての合同避難訓練を毎年実施している。当日は、第１次避難場所として、小学校入口に幼小中全員が集まり、中学生が幼稚園児や低学年の手を引いて、第２次避難地である地区の防災倉庫まで避難した。（実施要項は、「２　連携の取り方」に掲載）

〈避難訓練の様子〉

【放送の合図で机の下へ避難】

【中３と園児が一緒に避難】

【小学生も走って避難】

【中１も小学１年生と一緒に避難】

【小学生も一生懸命に避難】

【やっと避難地へ】

【中学校校長からあいさつ】

【防災教育アドバイザーから講評】

（４）被災地訪問（平成２７年８月２６日～２８日実施）

小学校児童代表３名と中学校生徒代表４名、職員３名の計１０名で、宮城県を訪れ、学校訪問やボランティア活動を体験した。（計画、調整については、「２　連携の取り方」に掲載）

①　目　的

児童生徒が、被災地の学校訪問やボランティア体験等を通して、防災についての関心を高め、自ら率先して避難する力や災害時に支援者として活動しようとする意識・態度を育てる。

②　期　日　　平成２７年８月２６日（水）～２８日（金）

③　訪問地　　宮城県仙台市、名取市、石巻市など

④　参加者　　東雲中学校：校長、防災担当、生徒（男子４名）
　　東雲小学校：６年担任、６年児童（男子１名、女子２名）　計１０名

⑤　行　程

〈８月２６日（水）〉

○　６：０２発　浅海井駅からＪＲで福岡へ。福岡空港から空路宮城県仙台へ。

○１２：２０着　仙台空港到着後、空港内を見学。空港も津波による被害を受けていた。その時の津波高は３．０２ｍで、中学生の身長の約２倍の高さであった。

○午後（訪問地：語り部タクシー）

・千年希望の丘（第１号）

・名取市の閖上地区を視察。この地区の津波の高さは８．０６ｍであった。
名取市では、震災で１，０２７人が亡くなっている。多くの方が、まさかここまで津波は来ないとの思い込みによる避難の遅れであるが、閖上地区にはもう一つ、車での避難者が大渋滞に巻き込まれ身動きが取れないまま犠牲になった。閖上中学校は１階部分が浸水。時計は２時４６分で止まっていた。この中学校では、１４名の中学生が、自宅などで亡くなった。近くに、１４名の冥福を祈り、慰霊碑が建てられていた。全員で慰霊碑に手を置き、合掌した。

・荒浜地区
避難所タワー。高さは９．９ｍ、１・２階は津波が通り抜ける構造になっている。最大３００人の収容が可能。３階には、食料品・毛布・水などの避難所として生活ができるようになっている。このようなタワーは１基だが、今後増設する予定である。

〈８月２７日（木)〉

○　石巻市立万石浦小学校、万石浦中学校訪問。

【万石浦小学校】

【学校で説明を受ける様子】

《万石浦小学校》　対応：校長、教務主任

・３・１１の地震により、この地域では校舎も含めて５０㎝地盤沈下した。
・当時は６時間目の授業中で、机の下に避難した。その後、体育館へ避難したが、津波が来るということで、屋上に避難した。その後、保護者への引き渡しを行った。（引き渡し訓練が非常に役立った）
・保護者が迎えに来ない児童は、一夜を学校で過ごした。食料はポテトチップスなどをみんなで少しずつ食べた。
・困ったことは、トイレの使用で、水が出なく、悪臭が漂った。
・この小学校では、保護者の引き渡し後に、２名の児童が亡くなった。

【万石浦中学校】

【生徒会長からの説明】

《万石浦中学校》　対応：校長、防災担当、生徒会長、副会長、３学年主任

・副会長の生徒は、震災当時小学生で校庭に避難した後、津波の情報で中学校の３階（１４ｍ～２０ｍ）に避難。（中学校は避難所に指定されていた）父母は震災後３日目に学校に迎えに。避難所では、飴やパンを高齢者や子どもたちに優先して配布していた。トイレが共有で、水が出ず臭いがきつかった。
・当時、中学生は薪割りや、毛布の配布などを手伝っていた。プールから水をくんでトイレの水として流していた。
・校長から示された２つの教訓
　＊避難する場所をどこにするか予め決めておくことが大切である。
　＊学校以外の場所で被災したらどうするかを考えておく必要がある。
・３・１１の地震の前にも、大きな地震があった。その時、戸倉小学校では山に避難したが、非常に寒かったという教訓から。３・１１では防寒着を着て避難した。

○　雄勝（おがつ）ローズファクトリーガーデン（ボランティア体験）

・犠牲者の弔いのために作られた庭の花木の手入れをボランティアとして行う予定だったが、雨天により、経営者（元雄勝小教職員）から当時の雄勝小等の様子を聞く防災教育プログラムを実施していただいた。

＜雄勝小学校の避難の仕方から学ぶ教訓＞

・平成２３年３月１１日２時４６分震度６強の地震発生。校内放送は停電で使えず、揺れがおさまってから各担任の判断で校庭へ避難。４、５、６年の児童７０名が校庭に集合した。引き取りに来た保護者の対応に約３０分かかり、この間に強い揺れが２回あった。

・３時頃に大津波警報発令３ｍ→６ｍ→１０ｍ→？　大津波警報の津波の高さがイメージできなかった。（過去のチリ地震津波の記録から校舎１階程度と想定していた）

・引き取りに来た保護者等の対応が一段落した後、校庭では教職員が数名集まって避難場所を話し合っていた。引き渡しができていない子どもたちは校庭に待機したままであった。

・３時１０分頃、保護者の一人が学校長に詰め寄って叫んだ。「早く山に逃がして！」しかし、学校の避難マニュアルは体育館に避難となっていたため学校側は動かなかった。

・しかし、ある教職員が保護者の呼びかけに答えて、４年生を先頭に新山神社へ走った。

・約５分後、津波第一波が校庭に入るが、すぐに引く。その後、しばらくしてから消防団の無線機を通して第二波が堤防を超えたという情報が入った。

・３時２５分頃、雄勝湾の方を見ると町並み全体が流され始めた。

・目の前で体育館が流されたので、新山神社よりもう一段上にある鎮魂の碑へ逃げた。

・夜となり雪も降ってきたので、消防団の情報と誘導で一山越えた焼却場へ移動した。

教訓１　学校・保護者・消防団・子どもで避難マニュアルを共有し、実際に避難訓練を行う

教訓２　引き渡しの後に亡くなった子どもはいなかったが、引き渡しの是非は検討が必要

教訓３　経験知に縛られず、経験知を超えた事態が起こることも想定する（経験知：チリ沖地震）

教訓４　地形によって変化する津波の特徴の理解が必要（大津波警報は、津波高さの平均値）

教訓５　学校だけでは地域の情報不足

実際に、参加者で当時の小学生と同じルートをたどり、避難してみた。

○　石巻市立大川小学校跡地訪問

石巻市釜谷地区の北上川河口から約４km川沿いに位置する大川小学校は、３月１１日の東日本大震災で全校児童１０８人の７割に当たる７４人が死亡、行方不明となった。

【震災前の大川小学校】

⑥　まとめ

ア：津波は地形によって変化するという津波の科学的な理解が必要。

イ：自分の地域を襲う津波のイメージをもって防災対策を立てることが重要。

ウ：今、津波警報が出たらどうするか。→　イメージしておくことが大切。

最後に、津波警報が発令されたら

・情報収集　→　震源地と津波が到達するまでの時間の把握。収集手段は停電を想定し、ＴＶ・ラジオは不可→車のカーナビや携帯電話が有効。

・自分が立っている地形を察知　→　平野部（海岸近くは３階以上のビルへ）、Ｖ字谷（山や２０ｍ以上の高台、３階までのビルは危ない･･･屋上まで津波が到達し多数の被害者）→　移動手段（徒歩か車かは、適時判断）

・家に戻らない･･･「津波てんでんこ」。集合場所を家族で決めておく。

・津波警報は職場や学校や自宅にいる時とは限らず、旅先、都市の地下街、電車内、運転中かも知れない。時間も昼夜を問わず、天候も雨、雪、嵐の時も想定する必要がある。

今回の被災地研修では、たくさんの学びがあった。佐伯市と雄勝町はリアス式海岸に面しており、非常に似た地形であった。今回の地震では、１９６０年のチリ沖地震の経験知が「まさかここまで津波は来ないだろう」という思い込みにつながり大惨事につながったと聞いた。過去を学ぶとともに、住んでいる地域の地形を学び、津波到達時間を知り、避難訓練を重ねることの必要性を強く感じた。

千年希望の丘で、二度とこのような悲惨な状況を起こさせないために、私たちには、子どもたちにこのことを伝えていく役割があると考えた。

２　連携の取り方

（１）小中合同部会の組織づくり

小中一貫教育校の利点を生かし、小中合同で下記の部会を設定し、防災教育に係る組織的な取組を行った。

小中合同主題
「自他の命の大切さと向き合い，自ら行動できる児童生徒の育成をめざして」

↓

小学校主題：「お互いの考えを伝え合い、情報を共有し、自ら行動する子どもの育成をめざして」～防災教育を通して～
中学校主題：「命の大切さと向き合い、問題解決のために主体的に判断し行動できる生徒の育成をめざして」～防災教育の指導を通して～

↓

《研究部会》	《総合部会》	《生徒指導部会》	《防災教育部会》
提案授業の指導案の作成等	小中９年間を見通した防災教育カリキュラム作成	・ＰＴＡとの連携 ・通学路の点検	防災訓練・講演会 ・先進校視察等
研究担当	総合的な学習の時間担当	生活（生徒）指導担当	教頭・防災担当

（２）小中合同部会の取組紹介（一部紹介）

①　研究部会

ア　ねらい

一人一人に考えをもたせ、それを交流する場を設定し工夫することで、問題解決に主体的に取り組み、判断し、行動する力を伸ばす。

イ　ねらいの設定理由

これまで、学びを支える力として「伝え合う力」（話す力・聞く力）の育成を中心に小中合同で研究を進めてきた。そして、今年、小中で防災教育の研究指定を受け、情報を集め、判断し、危険回避やその時に何が自分たちにできるか、どう行動すればよいかを判断し、行動できる生徒の育成が重要となる。

ウ　取組（研究内容）

・伝え合う力（ペア・グループ活動）を中心とした小中合同の授業のあり方の研究
・話形の活用を利用した授業作り
・防災教育発表会の提案授業の指導案作り

エ　アンケート項目（東雲中学校のみ掲載）

○　第１回調査　平成２７年４月２８日（生徒　４６人）
○　第２回調査　平成２７年１０月８日（生徒　４７人）
○　項　目（※答え方は、あてはまる所に○をつける。記述）

あ　「南海トラフによる地震について、話を聞いたりしたことがありますか？」(ある・ない)
い　「『ある』と答えた人は、どのような場面で聞きましたか？」(記述)
う　（A　地震が起こった時)「学校や家にいる時に、みなさんが行うことはどんなことですか？」(記述)
え　(A)「外にいる時に、みなさんが行うことはどんなことですか？」(記述)
お　「上浦地域ではどんな災害が起こりますか？」(知っている・知らない・わからない)
か　「『知っている』と答えた人は、どんな災害か具体的に書いてください。」(記述)
き　「次の場合、安全に避難する場所を知っていますか？」
・「学校にいる時」(知っている(場所:　　)・知らない・わからない)
・「家にいる時」(知っている(場所:　　)・知らない・わからない)
・「登下校の時」(知っている(場所:　　)・知らない・わからない)
・「他の地域で遊んでいる時」(知っている・知らない・わからない)
く　「地震がおさまってから」
・「あなたが、周りの人の安全のためにできることはありますか？」(できる・できない・わからない)
・「『できる』と答えた人は、具体的に何ができますか？」(記述)
け　「避難した時、家族と集合する場所をきめていますか？」(きめている・きめていない)
こ　「避難した時、家族との連絡方法を決めていますか？」　(きめている・きめていない)
さ　「災害が起こる前に」
・「地震に対して、何か準備していますか？」(している・していない・わからない)
・「『している』と答えた人は、どんな準備をしていますか？」(記述)
・「あなたは、家族と地震について話し合いをしたことがありますか？」(ある・ない・わからない)
・「『ある』と答えた人は、どのようなことですか。(記述)
し　「あなたは、もっと地震などについて学習したいと思いますか？」(思う・思わない)
す　「災害を前もって防ぐことを『防災』と言いますが、『防災』について学習したいことや知りたいことを書いてください。」

② 総合部会

ア ねらい

小中学生の発達段階を踏まえ、上浦を中心に、防災の視点を入れた「総合的な学習の時間」のカリキュラムの見直し、編成を行う。

イ ねらいの設定理由

「総合的な学習の時間」は、各学年に応じた内容で小中学校それぞれで編成されている。これまで、防災について取り組んでいる学年はあったが、「上浦」と「防災」を共通テーマとして、各学年の発達段階に応じて、系統性のあるものにしていくことを目的とする。

ウ 取組（研究内容）

・７年間を見通したカリキュラムの作成

・「上浦」と「防災」をテーマにした内容の系統性を図る

・防災教育のカリキュラム作成と生活科・総合的な学習の時間との関連づけをする

エ 防災教育カリキュラム（一部）

《防災教育カリキュラム》　　－第５学年－

教科等	単　　元	時期	内　　容
国語 社会 理科 家庭	・情報ノートをつくろう ・日本の地形と気候 ・天気の変化 ・はじめてみようクッキング	4月	・新聞、TVなどの社会の動きに関心をもつ ・国土の特徴に関心をもつ（火山・南海トラフなど） ・災害につなげて考えさせる ・調理の仕方
国語 社会 体育	・言葉と事実 ・米づくりのさかんな地域 ・病気の予防	6月	・言葉を正しく伝える必要性を学ぶ ・具体的な米づくり体験 ・避難生活の体調管理などにつなげる
国語 総合	・新聞を読もう ・地域の名所を調べよう	7月 1学期	・新聞、TVなどの社会の動きに関心を持つ ・地域の様子を調べながら、地域の土地の特徴を含め、観光客が多く訪れる場所などを調べる
国語 理科	・意見文を書こう ・台風と天気の変化	10月	・情報をもとに自分の考えをまとめ、伝えあう ・災害につなげて考えさせる
算数 理科 家庭	・単位量当たりの大きさ ・百分率 ・流れる水と変化する土地 ・食べて元気に ・わくわくミシン	11月	・グラフやデータの見方について力をつける ・水害の仕組み、川や土地のでき方、天気との関係 ・調理の仕方　災害時になまものを食べる危険性 ・クッションづくり　教室に常備し、災害時に役立てる
体育	・体力を高める運動	12月	・避難生活の体調管理などにつなげる
社会	・情報を伝える人々	1月	・正しい情報の受け取り方、情報リテラシー
社会	・自然災害と共に生きる	2月	・日本の国土に関わった自然災害について学ぶ
体育	・病気の予防	2月	・避難生活の体調管理などにつなげる
総合	・観光マップをつくろう	3学期	・地域の様子を調べながら、地域の土地の特徴を含め、災害時の避難経路、避難箇所、危険箇所の確認をしたり、災害に対する備え、災害事故に対する事前防止などを、観光マップづくりにつなげる

（３）幼小中合同避難訓練

下記の実施要項により、幼小中の教職員で共通理解を図るとともに、管理職及び防災担当が、地域の防災関係各所に連絡を取り実施している。

① 実施要項

ア 日 時　平成２７年５月２６日（火）　９：００～１０；１０　※少雨決行

イ 目 的　近い将来での発生が危惧されている「南海トラフ地震」に備え、地震・津波による被害からの円滑な避難の仕方について体験学習する。

ウ 日 程

○ ８：３５　事前指導　避難の仕方について指導（～９：００）

○ ９：００　非常ベル作動

放送「訓練です。訓練です。只今、豊後水道を震源地とする地震が発生しました。園児（児童生徒）の皆さんは、揺れが収まるまで机の下や安全な場所に避難してください。近くにいる先生は避難の指示をしてください。」

○ ９：０３　「只今、揺れがおさまりましたので、園児（児童生徒）の皆さん、先生方は、ライフジャケットを持ち、靴に履き替え、第１次避難場所に速やかに避難してください。」

○ ９：０５　放送終了時刻（第１次避難開始）

誘導担当　学級…学級担任　計時担当…各教頭

○ ９：１０　避難終了

報告：学級委員長（整列）→学級担任→教頭→校長

※ラジオ等で大津波情報確認

○ ９：１２　第２次避難開始

ハンドマイク「只今、上浦地区に大津波警報が出されました。高さ１５ｍ以上の津波が約２０分後に来るそうです。地区の避難場所に速やかに避難しましょう。」

※避難開始（９：１２）から時間計測…防災倉庫前広場に移動

★避難の順番：小学生（６年～１年）→中学生（１・２年）→中学生（３年）＋幼稚園児

★防災倉庫前広場（避難場所）への避難経路

○ ９：３０　全体会…避難場所　進行・集団指導：防災担当※放送機器準備（中：教頭）

・はじめのことば　（小：防災担当）
・避難所要時間報告　（小：教頭）二次避難開始～人数報告完了まで
・講評　（中：校長）
・講話「津波の場合の避難について」（防災教育アドバイザー）
・生徒会長お礼のことば　（生徒会長）
・終わりのことば　（小：防災担当）この後の連絡･指示を含めて

○ 移動　小学生→幼稚園・中学生→中学生の順で移動

エ 注意事項　〈避難時の心構え〉

「おはしも」→４つの原則…おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない

・非常ベルが鳴ったら、放送をよく聞く（出火場所・津波警報の確認、先生の指示に従う）

・ライフジャケットを持って出る（教室の窓を閉める。電気を消す）※出席簿は学級担任

・４つの原則を守り、早足で、下履き（通学靴）に履き替えて校舎外に出る
・ライフジャケットで頭部を保護する。第１避難場所から着用する
・小６→小５→小４→小３→小２→小１→中１→中２→中３＋幼稚園で避難する
・全体会は広場で実施。広場に集合し、朝会体型に整列する
・避難整列終了後、担任は幼児児童生徒の人数を慎重に確認（出席簿持参）し、状況を各教頭に報告する

オ　備　考

〈関係機関への連絡等〉
・佐伯市消防署上浦派出所…消防訓練通知書、職員の派遣申請等
・佐伯警察署上浦駐在所…交通指導
・佐伯市教育委員会（学校教育課）
・上浦振興局、上浦地区公民館、浅海井公民館…避難訓練実施の事前連絡

〈避難中の交通安全〉　横断歩道（公民館前の信号）に担当者を配置する…中学校（担当）
〈緊急車両の準備〉　小学校１台、中学校１台
〈避難経路の清掃等〉　林道の枯葉、草（避難するのに困る部分）の清掃…前日午後

（４）被災地訪問

以下のとおり、訪問に係る計画立案、訪問地等の調整等を佐伯市教育委員会学校教育課が行い、東雲小学校、東雲中学校と協議をしながら、準備、実施に至る。

〈訪問実施までの流れ〉
４月：訪問人数（教職員、児童生徒、教育委員会担当者）、日程及び行程原案作成、旅行業者とホテル・校庭・費用等を相談
５月：東雲小学校、東雲中学校の校長及び関係者と人数、日程及び行程原案を協議
５月：宮城県石巻市教育委員会担当課に連絡、趣旨説明及び訪問校選定の依頼。ボランティア体験申込
５月：訪問校決定後（石巻市立万石浦小学校、万石浦中学校）、訪問校に電話で依頼
５月：石巻市教育委員会、万石浦小学校長、万石浦中学校長あてに文書により正式依頼
６月：日程及び行程の確定、東雲小学校、東雲中学校において児童生徒、保護者への説明と参加児童生徒の選定
７月：旅行業者との費用の確定、旅行券・ホテル確保、被災地での見学用タクシー手配
７月：被災地研修説明会①
（教育委員会→東雲小学校・東雲中学校教職員、参加児童生徒・保護者）
７月：東雲小学校・東雲中学校から、研修地の学校、ボランティア体験施設等への連絡調整
８月：被災地研修説明会②
８月：被災地研修実施

〈費用〉被災地視察にかかる費用は、２泊３日の行程（旅行パック仙台泊を利用）で、一人当たり約６～７万円となった。

〈主な行程〉

８月２６日（水）学校最寄り駅（ＪＲ６：００発）→福岡空港→仙台空港→仙台市・名取市等被災地見学（語り部タクシー利用）→仙台泊

８月２７日（木）仙台市→石巻市立万石浦小学校・万石浦中学校訪問→雄勝ローズファクトリーガーデンにてボランティア体験→大川小学校跡地見学→仙台市泊

８月２８日（金）仙台市→仙台空港→福岡空港→学校最寄り駅（ＪＲ１９：００頃解散）

３　まとめ

（１）成果

○　中高一貫教育のよさを生かし、９年間を見通した防災教育の視点を取り入れた「生活科・総合的な学習の時間年間単元表」を作成した。これにより来年度以降、防災教育を通して児童生徒に付けたい力を明確にするとともに、教職員が地域の「ひと・もの・こと」を活用して具体的な地域課題と向き合うことが期待される。

○　合同避難訓練や防災キャンプなど、小中が連携した取組を通して、児童生徒の防災意識の高まりやつながりの深まりが感じられ、声を掛け合い主体的に行動しようとする姿が見られ始めた。

（２）課題

○　今後、「生活科・総合的な学習の時間年間単元表」に基づく取り組みを進めるに当たり、付けたい力を明確にすること他教科・領域との関連を整理すること、防災に係る地域の「ひと・もの・こと」の情報収集を行うこと等に、小中の連携を図りながら、計画的に取り組む必要がある。

○　引き渡しカードは作成したが、訓練までには至っていない。予告なしの訓練や安否確認の方法など、今後の小中連携による取り組みが必要である。

※　雄勝ローズファクトリーガーデンでの防災教育プログラムの様子は、雄勝ローズファクトリーガーデンのホームページで見ることができます。